

教区だより

No.293

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌

2012 1 2



特集

福島の子どもたちの一時避難受け入れの会発足

3

ひとたび大地を汚した放射性物質は、今なお福島の人々を苦しめます。「健康に影響がないレベル」とはよく耳にしましたが、本当に影響がないかは誰にもわかりません。いまここで私たちにできることを始めたいと思います。

ざっ ぽう 雑 宝



人生の中で出遇った大切な言葉。その言葉がその人に何を教え、その人をどのように歩ませたのか、思いを綴っていただきます。

【筆者】若狭第二組 恵誓寺 住職

たちばな えきょう
橘 恵慶 氏

4

…自分のことは良く見せよう、他人のことは知らず知らずに過小評価している私である。それでも私は「極重悪人」とは思っていない。…(本文より)

連載

《第2回》歎異の精神、その伝統

よつつじ あきら
四衢 亮 氏

5

今という時代／出会いの窓

6

京都教区教化レポート（出版小委員会）

7

■ ■ ■ 京都教区の動き ■ ■ ■

三 浦 講

十月七日・八日に滋賀県高島市今津町浜分の浄立寺におきまして、三浦講をお勤めさせていただきました。お陰様で二百名を超える御同朋のご参拝をいただき、心より有り難く感謝いたしております。

三浦講は四百数十年の歴史をもつ湖西地域の一大法要として、毎年、今津とマキノの講中寺院十一カ寺が交替してお勤めしています。戦国時代、石山合戦で織田信長から本願寺とお念仏の教えを命がけで護った三浦衆(今津・海津・大浦の門徒衆)の先達の労苦を偲ぶとともに、門徒の伝統ある聞法の機縁として受け継がれている大切な法要です。

講師には一楽真氏(大谷大学教授)をお招きし、「願生浄土の仏道」という講題で御法話をいただきました。一楽氏は「この講は、聞法の間を護った私たちの先人の心根を、今を生きる私たちが捉え、受け継ぎ信心を新たにする場です。」と語られ、聴聞されたご門徒からは「めまぐるしく変化する今日におい



て、講そのものの持つ意義について、あらためて深く考えさせられました」という声がありました。

そして、私自身にとっては、教如上人の御消息を拝読させていただいた時、「浄土真宗の教えはまさに五濁悪世の時代社会と厳しく対峙する命がけの念仏であるぞ」と、呼びかけられているように感じ、同時に、真宗大谷派教団に身をおく私の生きざまが、本当に聖人一流の教えにかなっているのかどうか、厳しく問いただされていることを痛感させられました。

(近江第二十六組 浄立寺 保木 悦雄)

合掌

山城第一組門徒会三十周年

十月十五日、京都センチュリーホテルにおいて、京都教区山城第一組門徒会三十周年記念式典・祝賀会が開催された。

当日は篠原教務所長らの来賓挨拶、京都教区合唱団と鈴木君代氏の各コンサートで感動が広がった。又、発足時の組長の祝辞挨拶では当時を思い出しつつ話される話しっぷりに笑いも起こり、会は和やかに盛り上がった。

宗派の門徒会は結成されて三十周年を迎える。山城第一組門徒会ではこの三十周年記念式典に向けて、春から全員で取り組んで来ら

れた。会長始め、出席の皆さんによりよくこの日を迎えられた笑顔が見られた。

(編集委員 横田)

大津別院清掃奉仕

十月十日、大津別院において京都教区仏教青年会主催の清掃奉仕が行われた。昨年は岡崎別院での開催であったが、今年は、教如上人四百回忌法要を来春に控えていることもあり、教如上人とゆかりのある大津別院での開催となった。約十五名の参加者があった。

まず、曾我徳雄輪番よりあいさつをいただき、別院の沿革並びに教如上人との関係について説明を受けた。その後、グループに分かれ、本堂・書院・廊下の掃き掃除、拭き掃除を行った。終了後、別院内において懇親会を行い、参加者同士の交流を深めた。

※写真を京都教区のホームページ内に掲載しましたので、ご覧ください。



(京都教区仏教青年会副会長 本多 真)

福島の子どもたちの一時避難受け入れの会発足 三品 正親

会長

微量の放射線であっても子どもには浴びせたくない。できる限り子どもの安全を確保したい。そんな願いから始まった「春休み福島の子どもたちのホームステイ」。その動きに教区の有縁の方々の思いが重なり大きな一歩を踏み出すことになりました。

*発足にあたって

本年三月、福島県二本松市の同朋幼稚園の園児とその保護者を対象に、「京都教区での春休み福島の子どもたちのホームステイ」を実施いたしましたところ、教区内から多くの賛同を頂き、五日間の活動を無事に終えることができました。有縁の皆さまの様々な支援が、大きな力になったことに感動いたしました。しかし、福島の子どもを取り巻く環境はとても安心できるものではなく、この活動を続けることの大切さとその必要性を強く感じました。

そこで、支援を継続することを組織として

具体化することになり、今回「真宗大谷派京都教区福島の子どもたちの一時避難受け入れの会」(以後、「受け入れの会」)を立ち上げる運びとなりました。つきましては、皆さま方に引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。この受け入れの会の具体的な活動としては、福島の子どもたちの一時避難受け入れや、それに関わる研修会等、企画運営するとともに、詳細を会報で皆さまにお伝えいたします。また教区会と教区門徒会の承認を得て京都教区の関係団体として規約に基づき運営して参りますので、今後共ご支援ご協力を宜しくお願いいたします。

*今後の主な活動

一、来春、同朋幼稚園の園児とその保護者の一時避難を、大谷大学湖西キャンパスにおいて実施します。

二、福島の子どもたちを取り巻く状況について研修会を予定しています。

三、同朋幼稚園で実施されている、米や野菜の市場に支援を行います。

※ 活動支援金は左記までお願いします。

【カンパ】

ゆうちょ銀行

口座名 真宗大谷派京都教区福島の子どもたちの一時避難受け入れの会

店名 四四八

店番 四四八

預金種目 普通預金

口座番号 〇八〇八七三〇

*米、野菜の支援について

同朋幼稚園の理事長佐々木道範さんが副住職を勤める真行寺が幼稚園に隣接しています。こちらのお寺の仏間では毎月十日、二十日に青空市場が開催されます。これは内部ひばくが心配される福島の子どもたちに、福島県外産の野菜や米を提供するために開催されているものです。もし可能であれば、米と野菜を送っていただければ幸いです。その前日、前々日に、米や野菜を左記の宛先に送付してください。市場の様子は「TEAM 二本松理事長佐々木道範のブログ」に「青空市場委員会」として掲載されています。

【送り先】

〒九六四―〇九〇二

福島県二本松市竹田一―一九二

真宗大谷派 真行寺 青空市場

電話番号 〇二四三―二二―〇七三九

雑宝



若狭第二組 惠誓寺 住職

橘 惠慶

「煩惱無尽・大悲無倦」

雪がふる

雪がふる

雪がふる

雪がふるふる

雪がふる

煩惱無尽と

雪がふる

雪がふる

雪がふる

雪がふるふる

雪がふる

大悲無倦と

雪がふる

東本願寺の同朋会館で守衛をされていた木村無相さんの詩です。

先日、坊守とこんなことがありました。

昼日中にトイレの電灯がついていました。近くにいた坊守に「また、電気つけっぱなしにして……」と言いましたら、「あんたこそ、いつもや……」と言いつ返されました。お互いに「私はたまに忘れるけども、あんたはよく忘れる」と思っているようです。

また、京都教務所で会議があるので、ついでに宗務所と法蔵館に寄って、いろいろな思案をしておりましたところへ坊守が来て「明日、あんた、どっかへ行くの?」「昨日から京都へ行かんなんて言うてるやろ。予定表にも書いてあるし……」「あ、そう。私も明日、午後おらんし。」「え?どこへ行くの?」「民生委員の会議でハアトピアや、予定表に書いてあるので

……」また、やられてしまった。これだけバタバタしていたら、忙しいのやな、ご苦労様と思ってくれると思っていたが、全然気にも留めてもらえなかったのである。逆に、坊守が民生委員でバタバタしていても、私には他人事だったのである。如何に自分さえよければ良いという世界に生きているかの見本である。

毎日、毎日、「邪見憍慢悪衆生」を生きている。自分のことは良く見せよう、他人のことは知らず知らずに過小評価している私である。それでも私は「極重悪人」とは思っていない。

この「雑宝」の原稿を依頼されたときから、何を書こうかと悩んでいた。あんまり恥はかきたくないが、あんまり良い格好もしたくない。日頃のことをと思うが、あんまりあからさまには見せられない。やっぱり、ほどほどにということになる。「煩惱無尽」である。

坊守との会話も、この文章を書かせていただくことも、よくよく考えてみると「大悲無倦常照我」でありましょう。

身寄りが無い木村無相さんは晩年を福井県武生市の施設で過ごされました。献体を遺言されて、昭和五十九年一月に亡くなられました。

合掌

歎異の精神、その伝統②



四 衢 亮

(高山教区不遠寺住職)

親鸞聖人は、『ご消息』の中で、世に合わせようとしてか、世にはばかってか、世におもねてか、「この世」に関わって異義がおこるといふことを見定めていらつしやいます。そしてその異義は、「いいおどろかす」という姿となつて露になることが語られます。

『歎異抄』第十八章には、異義全体を受けような形で、「すべて仏法にことをよせて、世間の欲心もあるゆえに、同朋をいいおどさるるにや。」と出ています。直接は、「施入物の多少にしたがいて、大小仏になるべしということ。」と示されますから、施物の分量の多さで救いに差がでるように語り、多くの施物を要求する世間の欲心剥き出しの姿が、ともに教えを聞く人を脅すと語られます。

ただ、「いいおどろかす」という表現は、第十一章には、「なんじは誓願不思議を信じて念仏もうすか、また名号不思議を信ずるか

と、いいおどろかして」として出ています。また、第十二章には、「たまたま、なにごころもなく、本願に相応して念仏するひとをも、学文してこそなんどといいいおどさるること、法の魔障なり、仏の怨敵なり。」とも出ています。

剥き出しの物欲ではありませんが、念仏の仲間の内において、自らの主張を正当化し、認めさせることで、優位に立とうとしたり、自分の立場を保持したいことから起こってくる点では、世間の欲心です。

そうしたことで考えてみると、「いいおどろかす」という言葉はなくても、「歎異篇」では、その異義の姿がみな「言い脅す」という形が浮かび上がってきます。第十三章では、「なむなむのことしたらんものをば、道場にいるべからず」として、悪しきふるまいをしたものや、悪を造ったものを、共に教えを聞く場から排除するということで、「こんなことをした者は、仲間には入ってもらえない」と「いいおどろかして」と言えるでしょう。第十四章は、念仏して罪を滅しないものは救われないと「いいおどろかす」内容です。第十五章は、今さとりを開かなければならない。第十六章は、日頃の行いについてしつかりまじめに反省しなければいけない。第十七章は、疑いをもって辺地に往生するものは結

局救われないのだ。ということ、みな「いいおどされる」のです。

こうした『歎異抄』の視点の基にあるのは、「詮ずるところ、ひがごともうさんひとは、その身ひとりこそ、ともかくもなりそうらわめ、すべてよるずの念仏者のさまたげとなるべしとは、おぼえずそうろう。」(『親鸞聖人御消息集(広本)』第十通 真宗聖典 五七四頁)と、「ひがごと」という造悪無碍の主張をする者を、全ての念仏者の妨げになるとして排除しようとする在り方こそ問題だとされた宗祖の姿勢ではないでしょうか。

世間での自分たちの立場を悪くすると考えられるものや、異なるものを、口を塞いで黙らせ、自分の主張を正義として言い含めたり、いいおどろかすのです。さらに、「この身のようにてはいかが往生せん」と、我が身と我が心の悪さでは救われないのではという思い惑いに付け入っていいおどろかすこともありま。それこそが、本願の教えに背き、教えを破ることだと示されています。

いい脅して、自己を正当化し、主張を通し、他に優位に立つてコントロールしようとする宗教性が、宗祖が問題にされた「魔」なのでしょう。それが真宗における同朋という関係を破壊していくのです。こうした「異なり」を問い続けて、教えが伝統されてきたのです。

今という時代

人に死が訪れるように、街にもいつかは死が訪れる。

私が現在住んでいる地域は、地方都市の中心部なのだが、すでに平均年齢五十二歳、高齢化率四十％に達しており、十年後には高齢化率五十％を超える、いわゆる「限界集落」になる地域だ。既に地域の祭や風習が途絶え、老人と空き家ばかりが目立つ、まちなか限界集落といつていい。

国による二〇五〇年の人口予測では、日本の総人口は今より三三〇〇万人減少して九五〇〇万人に、また高齢化率は今の二倍となる四〇％となり、地方の小都市では人口が半減し、全国では人が住まなくなる地域が二割増える。さらに二一〇〇年には、人口は四七〇〇万人(今の約三分の一)となり、江戸時代の人口に近づいていくという。

二〇五〇年、万一生かされていたら、私は八十四歳。子供を都会の大学に進学させ、企業に就職させ、妻に先立たれ、自らは貧困と病苦にあえぎながら、「限界集落」の狐狸庵で一人惚けて生活しているのかもしれない。

地域的には、経済最優先で効率一辺倒を追求した結果、周りは老人ばかりになり、地元商店もなくなり、公共機関や病院さえもがなくなつてしまった「限界集落」状態、もしくは無人の「街」になつていくかもしれない。病院に行くこともできず、食えることさえまならず、支えてくれる家族もおらず、孤独死が頻発する地域・・・。

できれば厄介な子育ても親の介護も田舎のシガラミも回避して、都会で気儘な生活を楽しみたい。他人のことはどうでもいい、自分さえよければ、楽しければ、それでいい。そんな生き方が当たり前の社会を、私たちは選び取つてしまっている。その結果としてやってくる「超高齢社会」を前に、私たちの生き方、考え方が厳しく問い直されている。今のままで本当にいい

のですか、と。

そんな地域になるのを少しでも変えたいと思つて、「中心市街地活性化」という運動に私は参加している。ただ、その運動も見方を変えれば、周辺の農村部や他の都市から人口やお金を奪う運動であり、究極の自己保存のための運動とも言える。まちなかが衰弱しきる前に、少しでもにぎわいを取り戻し、若者に定住してもらい、自らの老後を支えてもらおうとしているのである。

「限界集落」と同じ状況が、私の地域(いちおう商業地域なのだが)にも、十年もたたないうちにやってくる。何も変えることはできないかもしれないが、今少し藻掻いてみようと思つている。

(編集委員 廣野 一道)

出 会 い の 窓



爆心地より 1.3km で被爆したアオギリは、広島平和記念資料館北側に立っています。その樹は、故 沼田鈴子さんと生き続けました。投下前は勤務先で友と過ごした木陰。投下後、生きることを決意した、細い枝から茂り始めた青葉。

修学旅行生に、花を咲かせ、種を落とす樹下で、被爆体験を証言し、平和を創り、護る願いを届けました。

アオギリの種は世界各地に広まり、沼田さんの願いと意志を引き継ぐ人々によって、今も種が国内外に届けられています。

私の家でもようやく苗が育ちはじめています。

- 種子連絡先 - NPO 法人
多文化共生と人権文化 LAS
【FAX】0856-27-0071
(編集委員・前田 賢龍)

『被爆アオギリ』

京都教区教化レポート

【出版小委員会】

皆様のご寄稿並びにお力添えをいただき、毎号、編集委員だけでは作り出せない広がりをもった『教区だより』ができておりますことを、先ずこの場を借りて御礼申し上げます。

『教区だより』は、京都教区の教化広報誌です。この教区だよりを、この広い教区の、その様々な立場に置かれた人にとって、読み応えのあるものにしていくことが、出版小委員会の大事な目標だと思います。

現在は、教区内各寺院と教区教化委員が主な配布先となつていますが、より多くの教区の人にとつていただき、毎月手元に欲しいという要望が高まり、その声によつて有縁の方に広く配布できるような体制作りが始まる・・・と良いなあと考えています。

さて、『教区だより』充実のためには、やはり、皆様のご意見ご要望を聞き取り、今後の誌面作りに反映させることが肝要になつてくるのではないかと思います。また、各地域での特色ある取り組み、Q & A で取り上げて欲しいこと、紹介したい行事等々、情報や投稿などお寄せいただき、誌面を奪い合うように使つていただければと思つています。

(主査 藤枝 良太)

事務連絡

《敬弔》

ご生前のご功労を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

近江第十一組 妙蓮寺前住職 平塚 靖人
二〇一二年八月三十日 八十一歳
近江第七組 善徳寺坊守 舎夷 加代
二〇一二年十月十日 九十五歳
〔届出順〕
〔敬称略〕

◎《二〇一三年春期教師検定について》

検定日 二〇一三年三月七日・八日
場所 真宗大谷派宗務所
科目 真宗学・仏教学・教化
声明作法・法規・口述試問
受付期間 二〇一三年二月一日から八日まで

※詳細につきましては、機関紙『真宗』の十一月号をご覧ください。

◎《年末年始事務休暇のお知らせ》

年末年始事務休暇として、左記の期間は教務所の事務の取り扱いを休止いたします。緊急の場合以外は、留守番電話にご用件を録音いただきますようお願いいたします。ご不便ご迷惑をお掛けいたしますが、ご理解の程、宜しく願ひいたします。

事務休暇の期間

二〇一二年十二月二十九日(土) から
二〇一三年 一月 六日(日) まで

緊急連絡先(教務所携帯電話)

〇九〇・三七一九・七九八二

※事務休暇期間中は、お急ぎの場合であっても授与物のお渡しや院号法名や収骨の申請、諸願事等の受付をいたしかねますので、誠に恐れ入りますが、十二月二十八日までにお手続きくださいますようお願いいたします。

◎《新刊書のお知らせ》

左記のとおり、新刊書が発行されましたので、お知らせいたします。



『英訳・教行信証』
価格 四、五〇〇円
鈴木 大拙 訳出
オックスフォード
大学出版社 発行

「親鸞聖人御誕生八百年・立教開宗七百五十年記念」の記念事業として、親鸞聖人の教えを世界に発信したいという願いのもと、鈴木大拙師(当時コロンビア大学客員教授)が訳出され、一九七三(昭和四十八)年六月三十日に発刊されました英訳『教行信証』が、このたびの宗親親鸞聖人七百五十回御遠忌を記念して、イギリス、オックスフォード大学出版社より再版・発行されることとなりました。

宗祖の主著である『教行信証』を異なる言語をもつて表現された大変貴重な文献でありますので、是非とも、ご味読ください。

◎《職員の異動について》

十月二十四日付にて、約四年間、京都教務所で勤務いたしておりました森 如範主計が大阪教務所主計に転任し、後任として、岡崎教務所より照井 静志主計が着任いたしましたので、ご連絡申し上げます。

■ 京都教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌テーマ ■

今いのちがあなたを生きている
 胸に響か いのちの声 感じますか いのちのねぐら

◆ 教区事業予定

12月10日(月)	14:00～16:30	教区財政委員会専門部会	会場◇教区会館3F	研修室
12月12日(水)	13:30～17:00	出版小委員会	会場◇教区会館3F	会議室
12月17日(月)	14:00～16:30	「女性室公開講座」事前学習会	会場◇教区会館2F	大講堂
12月20日(木)	13:30～18:30	組門徒会正副会長研修会	会場◇教区会館2F	大講堂
12月21日(金)	10:30～14:00	第2回門徒戸数調査 教区調査委員会小委員会	会場◇教区会館2F	大講堂

◆ 地区・団体事業予定

12月3日(月)	18:00～21:00	教区仏教青年会	会場◇教区会館3F	会議室
12月7日(金)	13:00～17:00	教区児童教化連盟	会場◇教区会館3F	研修室
12月10日(月)	15:30～18:30	大谷保育協会	会場◇教区会館2F	大講堂
	14:00～	伝研自主学習会	会場◇教区会館3F	研修室
12月11日(火)	～10:00	〃	会場◇教区会館3F	研修室
	19:00～21:00	教区仏教青年会	会場◇教区会館3F	会議室
12月12日(水)	9:00～17:00	坊守会真宗基礎講座	会場◇教区会館2F	大講堂
〃	14:00～17:00	靖国問題学習会	会場◇教区会館3F	研修室
12月13日(木)	9:00～17:00	教区坊守会一日研修会	会場◇教区会館2F	大講堂
12月14日(金)	14:00～17:00	教区合唱団	会場◇教区会館2F	大講堂
	16:00～19:00	教区児童教化連盟	会場◇教区会館3F	研修室
12月19日(水)	18:00～20:00	准堂衆会公開講座	会場◇教区会館2F	大講堂
12月26日(水)	18:00～20:00	声明会	会場◇教区会館3F	研修室

「掲示板」

すべての自力は、他力にささえられてあったんだ

—— 鈴木 章子 ——

「教区だより」第293号

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌

発行日 2012(平成24)年12月1日

発行人 篠原亨栄(真宗大谷派京都教務所長)

発行所 真宗大谷派京都教務所

〒600-8164

京都市下京区花屋町通烏丸西入

Tel: 075(351)5260

Fax: 075(351)5256

メールアドレス: kyoto@higashihonganji.or.jp

ホームページ: http://www.k-kyoku.net/

印刷所 (有) 寶印刷工業所

the editor's note

編集後記

毎月の編集会議の席上には、およそ2か月分の集まってきた原稿が折り重なっている。いろんな思いがつまった文章たちを前にして、いつも思う。この会議がなかったら、こんなに読むのだろうか。そう思うということは、自分でもうすうす感じているのだ、たぶん読まないということ。何かに縛られて追い込まれないと動かない質なのだと、つくづく思いながらも目を通して、心に波風が立ったりホッとしたり。文字が連なることの力を感じている。

(編集委員・東 美恵子)